

ジオコラム

あかいわの大地の成り立ち

② 熊山と熊山遺跡



熊山一帯は巨大なカルデラだった？ 岩石から解き明かされた太古の火山地形

岡山県南部の最高峰熊山(508m)は、8,000万～7,300万年前の白亜紀末期の火山活動でできた和気カルデラの一部でした。その大きさは南北約23km、東西約15kmに及び、阿蘇山の外輪山に匹敵する巨大なものでした。現在その地形は完全に失われてしまいましたが、カルデラを構成していた岩石の分布から当時の威容を垣間見ることができます。

熊山一帯には33箇所にあぶ石積遺構が存在し、山頂近くにある最大のものを熊山遺跡と呼んでいます。ピラミッドを思わせる特殊な三段方形で、熊山を作る流紋岩質の火砕岩を切り出して積み重ねて作られています。奈良時代の仏塔と考えられ、昭和31年に国史跡に指定されました。隣接する展望台からは、岡山平野、吉備高原、瀬戸内海の島々や四国の屋島まで、素晴らしい展望を楽しむことができます。



流紋岩質の火砕岩を積み重ねて作られた熊山遺跡



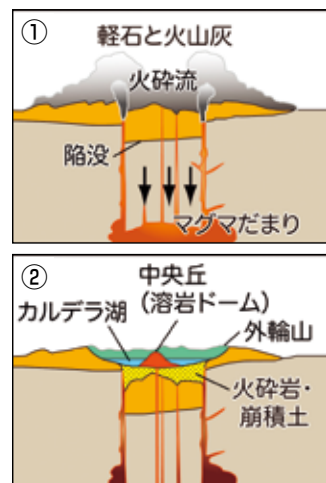
※国土地理院ウェブサイト(maps.gsi.go.jp)の地形図をもとに加工

ジオポイント

カルデラとは、大規模な火山活動によって地表が陥没してできた大きな釜状の地形のことです(①)。外輪山で囲まれた凹地には、湖や中央丘(溶岩ドーム)が形成されることがあります(②)。カルデラの地下には、火山の爆発で噴き出した高温の火山灰・軽石・火山岩などが塊となって高速で流れ、堆積した火砕流堆積物(火砕岩)が分布します。カルデラは時間の経過と共に削剥・侵食され、凹地がなくなり地下の岩石が露出するようになります。

もっと知りたくなった人は、地球史研究所の先生に聞いてみよう！

▶地球史研究所 ☎956-3538 (※外出中で不在のときもあります)



●問い合わせ先／本庁政策推進課 ☎955-2692